

ISO 審議状況の要点 (2007 年 8 月 1 日からの変遷)

(1) 大気専門委員会 (TC146)

●固定発生源 (SC1)

- ・洗浄可能なろ過材の性能試験方法が検討され始めました。
- ・自動システムの品質保証の検討が削除されています。

●作業環境 (SC2)

- ・ICP による金属分析のサンプル準備や調整法の改訂が検討されています。
- ・パッシブサンプラーの規格が発行されました。
- ・LC による全有機イソシアン酸塩類の測定法が発行されました。
- ・イオンクロマトによる硫酸、リン酸の定量法が発行されました。

●一般事項 (SC4)

- ・測定用単位の規定が発行されました。

●室内環境 (SC6)

- ・車内装飾品からの VOC 定量法が検討され始めました。
- ・アクティブ型サンプリング法の改訂が検討されています。
- ・カビのサンプリング法が検討され始めました。
- ・建築材料等からの放出物質に対する官能試験法が検討され始めました。
- ・PCBs、PCDDs などの定量法は 2008 年 12 月 31 日に発行される予定です。
- ・PCB や PCDD のサンプリング法が発行されました。
- ・二酸化窒素のサンプリング法が発行されました。

(2) 水質専門委員会 (TC147)

●放射能測定 (WG4)

- ・非塩水中の総 α 放射能測定法が発行されました。
- ・放射能核種の活性濃度定量法が発効されました。

●物理的・化学的・生物的方法 (SC2)

- ・PH 測定の改訂が検討され始めました。
- ・イオンクロマトによる溶存臭素酸の定量法が検討され始めました。
- ・低揮発親油性物質指標の定量法が検討され始めました。
- ・不確実性の検証が検討され始めました。
- ・短鎖ポリ塩化アルカンの定量法が検討され始めました。
- ・フロー分析によるシアン定量法の改訂が検討され始めました。
- ・メチレンブルー活性物質指標の定量法が検討され始めました。
- ・HG-AFS によるヒ素、セレン、アンチモンの定量法の検討が削除されています。
- ・電位差滴定による海水中の全アルカリ度定量法の検討が削除されています。
- ・LC/MS によるパーフルオロオクタスルホン酸等の分析法の検討が削除されています。
- ・イオンクロマトによる溶存陰イオンの定量法が発行されました。
- ・品質管理の指針が発行されました。
- ・特定アルキルフェノールの定量法が発行されました。
- ・グルホサートと AMPA の定量法が発行されました。

●微生物学的方法 (SC4)

- ・ばらつきと測定の不確かさについての検討が始められています。

●生物学的方法 (SC5)

- ・水中の DOC 定量法の改訂が検討され始めました。
- ・淡水流域の底生大型無脊椎動物の試料採取方法が検討され始めました。
- ・藻の阻害試験についての検討がされ始めました。
- ・発光バクテリアの発光速度試験の検討が復活しました。
- ・種々の発光バクテリア試験法が発行されました。
- ・カサゴ卵への急性毒性の定量法が発行されました。
- ・魚の生化学的・生理学的測定におけるサンプリング方法や EROD の定量法が発行されました。

●サンプリング (SC6)

- ・パッシブ法による地表水有害物質の測定に関する指針が検討され始めました。
- ・サンプリングデータの利用の手引きが発行されました。